

活 用 事 例	浜松市立三ヶ日西小学校	菊地寛教諭
活用事例タイトル	<b>新聞で伝えよう！思い出の修学旅行</b> <b>－ 相手・目的意識を重視した新聞を作成した学習活動 －</b>	
対象授業科目/活動	総合的な学習の時間「修学旅行を新聞で伝えよう」	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>ねらい</p> <p>伝える相手が何を知りたいのかということを考えて、短い言葉で伝えることができる。</p> <p>実施時期 22年11月</p> <p>対象 6年33人</p> <p>清書は、全員がパソコン入力を選択した。「全体の構成が分かりやすい」、「見た目がきれい」などの理由が多かった。使用したのは、「新聞作成ソフト」を利用した。子どもたちにとってはワープロソフトとあまり変わらず、抵抗なく入力することができた。個人で入力したものをグループの新聞に貼り付ける方法で行った。この「新聞作成ソフト」を使用することで、見出しや写真も簡単に入れることができるため、本物と同じようなものを仕上げることができた。また、グループの共同で進めているため、分からないときはグループの中で助け合う姿も見られた。</p> <p>伝える内容が修学旅行であり、伝える相手も保護者ということもあり、写真をたくさん見せたいと考える子どもが多かった。紙面には限界があるため、そこで、本実践ではQRコードを新聞に貼り付けることで、保護者が携帯電話で閲覧する可能性が高いと考えた。グループで選んだデジカメのデータをネット上にアップして、QRコードで閲覧できるようにした。</p>	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	<p>ICTを活用することで、より子どもの思いの具現が図られ、思考力や判断力、表現力も身に付くと考えられる。しかし、その前提として、相手意識、目的意識がしっかりとある必要があり、継続的に意識させていく必要がある。そして、一方的に伝えるのではなくどう相手が受け取ったのか反応を確認することで、何がよかったのかよくなかったのか振り返ることができる。</p>	
評価、振り返り(活動の評価や児童・生徒の声など)	<p>作成した新聞は保護者へ渡すとともに、友達の親へ手紙を添えて渡した。その返信の手紙では、「協力する大切さが分かってよかった」、「台風の中、頑張っていたことを知って安心した」などの感想が多く、子どもたちが伝えたと考えていた内容が書かれていたため、子どもたち自身もとても喜んだ。そして、どうして伝わったのか確認をした。「伝える相手のことを考えたから」、「自分の思いを入れたから」、「言葉をしっかりと選んだから」とその理由を確信していた。これもICT利用により分かりやすく子どもたちのイメージ通りに仕上げることができたためと考える。</p>	

その他  
(関連 WEB サイト等ありま  
たらご記入ください。)

児童の学習活動	評価	時
1 修学旅行の振り返りをし、伝えたいという思いをもたせる。	(調) 修学旅行のことを伝えたいという思いをもつことができたか。	2
2 「ガイドブックをつくろう」の振り返りをし、グループごとに記事の内容を考え、分類をし、学習計画を立てる。 ※ 修学旅行で記事にしたいことを思い付くだけ書いてくる。	(調) 記事にしたいことを意識的に考え、グループの中で発表できたか。	2
3 書く内容に合わせて、写真や資料などを選ぶ。	(研・思) 写真を選択する際、理由を伝えることができたか。	1
4 一人一人が記事の下書きを手書きかパソコンで書く。	(表) 自分の思いが家の人に伝わるように、記事を書くことができたか。	1
5 グループごとに読み合い、推敲をする。	(表) お互いに良さを認め、直すべきところは指摘することができたか。	1
6 清書や編集を行う。	(表) パソコンか手書きかを自分で選び、清書を書くことができる。	3
7 見てもらえる見出しを考えよう。	(表) 伝えたい相手の読者であることを意識して記事を書くことができたか。	1
8 出来上がった新聞がどう伝わったのか張り巡らそう	(表) 人に伝える上で大切なことは何か考えることができたか。	1